

九九ドッジボールゲームをしよう

単 元	かけ算の九九	対象学年	2年
ね ら い	九九の暗記に主力をおき、教師九九ドッジボールゲーム対決を通して楽しく学習することができる。		

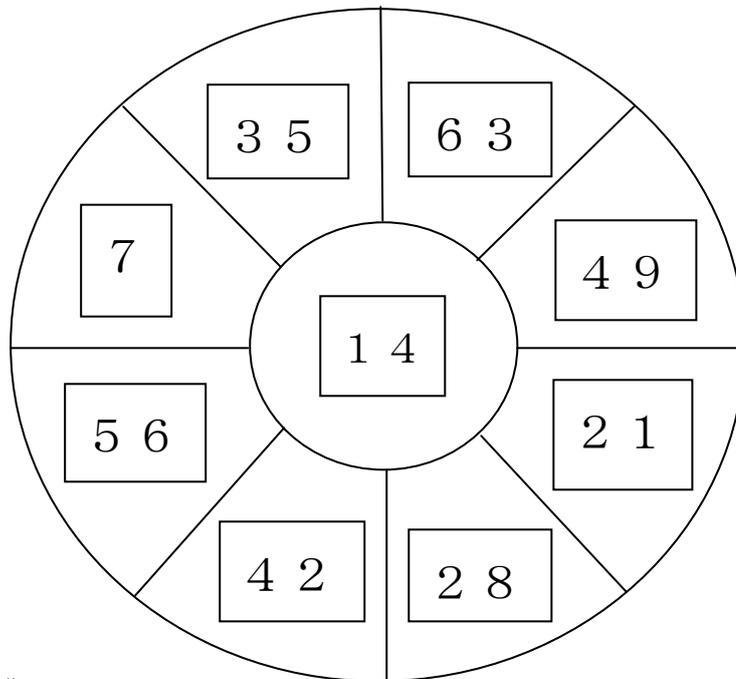
1 準備するもの

教師： ドッジボールのプリント(記録用)、ドッジボールのコート上に置くドッジをしている選手の姿カード6枚、九九のカード

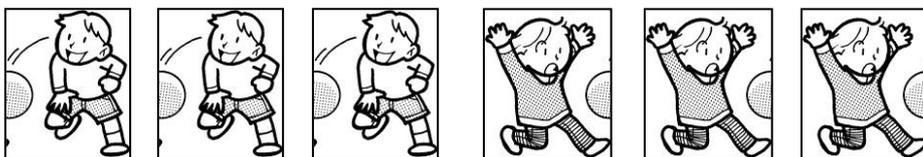
2 学習のしかた

(1) ボールの中に9つのマスがある。この中に、7の段の九九の答えをかく。(7の段の場合)

【例】



《選手のカード》



- (2) 九九の答えが合っているか、九九の表を見て確認する。
- (3) どのマスに置いても良いことを伝える。
- (4) 次に、マスの中に内野の選手カードを自由にマスの上に置く。ただし、1マスに何人置いてもよい。
- (5) この内野の選手めがけて、先生がボールを投げる。ボールは、7の段の九九のカードをひくことにより、投げたことにする。先生が九九のカードを見せたら、児童は

その九九をみんなで言う。

- (6) はずれをいれておくとさらにおもしろい。
- (7) 発表された九九の答えのマスに、内野の選手がいたらアウトになり、カードを外に出す。
- (8) こうして、ボールを合計6回投げる。6回投げて何人の内野選手が残るかを競う。1人でも残れば、その子は勝ち。残った人数を得点表に書き、何回戦か行い、合計点の多い人から1位、2位を決める。

回	1	2	...	計
残った人数				

3 学習上の留意点

- ・九九の答えをマスにかいた際、正確にその段の答えが書けているか確認するとよい。

4 学習の効果

- ・同じ段を何回も繰り返し計算することにより九九が自然に身に付く。
- ・7の段等、子供の苦手な段を集中的に練習することにより、苦手な段を克服することができる。

5 参考資料

『保護者参観授業を盛り上げる算数科とっておきのネタ』横山 駿也 著